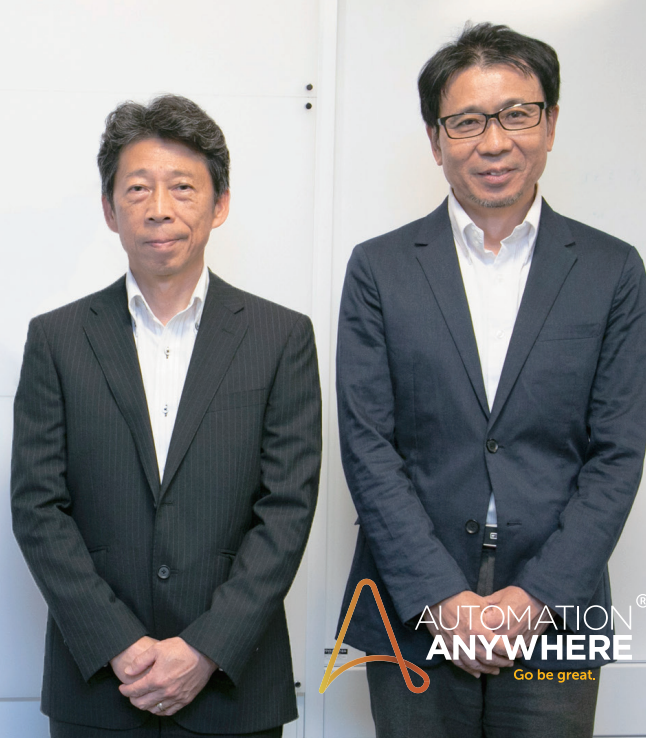


# 250のロボットが各部門で 稼働し、聖域なき業務改革に 大きな効果を発揮する Robotic Process Automation

**HITACHI**  
Inspire the Next

株式会社 日立ソリューションズ



## 組織の概要

日立グループの情報・通信システム事業の中核を担うIT企業として、製造や流通、通信などさまざまな事業領域に対して各種ソリューションを提供。業種・業務ごとに蓄積された豊富なノウハウと最先端のテクノロジーを駆使し、顧客の課題を解決するためのソリューションを幅広く展開。米国の関連会社と連携し、シリコンバレーのベンチャー技術を調達して、いち早く日本のマーケットに投入するなど顧客からの支持を得ています。

## 課題 聖域なき業務改革に取り組む働き方改革

同社では、2016年頃から全社を挙げて働き方改革に取り組んでおり、業務の無駄を省くことで長時間労働の削減や生産性向上、そして働く社員のエンゲージメント向上に向けた活動に注力してきました。それでも、Excelによる集計業務や報告書作成といった周辺業務は必要不可欠なものとして残っていました。また、2015年のグループ全体での組織再編に伴う基幹システムの標準化により、これまで活用してきた個社独自の機能が付加できず、既存業務を補完するために手作業による業務が増えたことも大きな課題になっていました。

## ソリューション 海外での豊富な実績と優れたメンテナンス性を評価

同社では、2017年からRPA(Robotic Process Automation)の本格検討を開始しました。自社での運用ノウハウを蓄積することで最終的には外販も意識した形でRPAを検討するなかで注目したのが、グローバルで実績のあるAutomation Anywhereが提供するRPAソリューションでした。

シナリオ開発の手法がメンテナンスしやすいリスト型である点に加え、対応するシステムが豊富な点もポイントの1つでした。オブジェクトを認識するAutomation Anywhereであれば、外的な影響を最小限におさえることが可能で、日立グループの基幹システムとして採用されているSAPやレガシーなシステムにも柔軟な対応が可能になると考えたのです。

## メリット

累計 **26,800** 時間

トータル削減時間（上期（9月末）実績）

**250** 超

稼働中のロボット数

**95** %

業務管理の集計業務における削減工数

## 自動化されたプロセス

- ・社員5000人の査定調書作成
- ・業績管理シートの作成や集計
- ・SAPなど基幹システムへのデータ投入
- ・発注システムに登録された情報へのフォローアップ
- ・各プロジェクトの進捗状況のための資料作成

業界

情報・通信業

「我々自身がソリューションとして提供することも考えると、グローバルでの評価も重要です。RPAの世界ではグローバルビッグ3の一角としてAutomation Anywhereが位置付けられており、興味を持ちました」



株式会社 日立ソリューションズ  
営業企画本部  
営業戦略部  
部長代理/エバンジェリスト  
**松本 匡孝 氏**

## 詳細 人事総務などのスタッフ部門から各事業部まで、あらゆる部門に適用

現在は、人事や総務、調達部門など主にスタッフ部門についてはセンタ側(社内システムを管理する情報システム部配下の組織)ロボットを開発し、各事業部ではそれぞれ現場にてロボット開発を実施することで、すでに250を超える業務にRPAが適用されています。全社展開にあたっては、ソフトウェアロボット開発ガイドを策定した上で自動化の判断を行い、Process in Visionを活用して業務の流れを可視化する仕様書を作成したうえでロボット開発に着手しています。事業部側で開発したロボットをセンタ側で管理することで野良ロボットを防ぐ運用を行っています。また、統合システム運用管理のJPIを活用してロボットの実行監視やジョブスケジュールを管理することで、数多くのロボットを効果的に運用するための仕組みづくりにも取り組んでいます。

例えば人事総務部門では半年に1度行われる5000人ほどの社員の査定調書作成時に、各種システムの社員情報や勤怠データ等の様々なデータを収集し、それらのデータから査定調書の作成をロボットで行っています。また財務部門では、各部門で集計されるExcelでの業績管理シートの作成や集計をロボットにて行っており、SAPへのデータ投入時にもロボットが活躍しています。さらに調達部門では、発注システムに登録された情報に対して納品日が過ぎた案件の状況確認などのフォローアップにロボットを活用しています。各事業部門では、数多く動いているプロジェクトの進捗状況を各リーダーにレビューするための資料作成など、さまざまな業務に活用されています。

## 結果 業績管理の集計業務で95%の工数削減、全体で2万6800時間の削減を実現

Automation Anywhereによる自動化が進んだことで現場の業務改善に大きく貢献、全体で2万6800時間の削減につながりました。例えば査定調書作成でいえば、専任者が5000人ほどの調書作成に1か月あまりかかっていましたが、今では1週間ほどで業務が完了できるように。ミスや不正防止につながるだけでなく、ログによって監査対応も実現、担当者の心理的なストレスも軽減できました。業績管理の集計業務では、事業部や本部単位に詳細な資料作成が求められますが、以前は数週間かかっていたものがわずか1日で終わらせることができ、95%の工数削減につながっています。

## 今後 RPA2.0に向けたさらなる自動化に向けて業務への適用範囲を広げたい

現在定型業務を中心にRPAによる効率化を実現していますが、現状のRPA1.0というレベルから、デジタルワークフォースとしての能力をフルに発揮できるよう、さらなる自動化に向けたRPA2.0の世界にまで広げて行く計画です。最終的にはAIを用いて自律化できるような世界も視野に入れていきます。

「Automation Anywhereであればメンテナンスがしやすく、運用面でとても助かっています。当初はできるだけ多くのロボットを作っていくことが中心でしたが、本質は、作成したロボットの運用をいかに継続していこうと考えています」



— 株式会社 日立ソリューションズ  
IT・情報セキュリティ本部  
経営システム部  
RPAセンタ 主任技師  
**井手 悦雄 氏**

## Automation Anywhereについて

オートメーション・エニウェアは、人がアイデア、思考、フォーカスを用いて企業を強化できるように支援します。私たちは、世界で最も洗練されたデジタルワークフォースプラットフォームを提供し、ビジネスプロセスを自動化し、人を定型的な業務から解放することでよりよい仕事環境の実現を支援します。

**デモをご希望の場合は、下記メールアドレスからお申し込みください。**

Automation Anywhere  <https://www.automationanywhere.com/jp>

 @AutomationAnwJP

 [www.facebook.com/AutomationAnywhJP](http://www.facebook.com/AutomationAnywhJP)

 [contact\\_japan@automationanywhere.com](mailto:contact_japan@automationanywhere.com)

無断複写・転載を禁じます。特に、Automation Anywhere、Automation Anywhereのロゴ、Go Be Great、BotFarm、Bot Insight、IQ Botは、米国またはその他の国あるいはその両方で認可された商標登録です。本書に記載されるその他の製品名は識別のみを目的としており、それぞれの所有者の商標です。